

～海洋資源を活用した「横浜ブルーカーボン」～
本市独自の制度による

取組拡大中！

横浜ブルーカーボン・オフセットを実施します！

横浜市は、海洋資源を活用した温暖化対策プロジェクト「横浜ブルーカーボン」において、横浜市独自のカーボン・オフセット制度の運用を平成26年度から行っています。これまで、地元の企業・団体の「わかめの地産地消」等によるCO₂削減効果を活用し、市内で開催されたトライアスロン大会等で排出されたCO₂のカーボン・オフセットを行ってきました。

このたび、平成30年度の横浜ブルーカーボン・オフセットの実施に伴い、「第7回ブルーカーボン・シンポジウム in 横浜」を開催し、取組を紹介します。

今年度は、新たなクレジット創出方法として、重油を燃料とするディーゼルエンジンと電動モータをバランスよくマッチングさせて、環境へ配慮した曳船を可能にした「ハイブリッドタグボートの導入」によるCO₂削減効果を導入しました。また、カーボン・オフセット実施団体として、新たに5企業が加わります。



🚢 第7回ブルーカーボン・シンポジウム in 横浜

～「横浜ブルーカーボン・オフセット制度」参加者による取組紹介等～

日時：平成31年2月21日（木）

10時30分から12時30分まで

会場：大さん橋ホール

（「海と産業革新コンベンション（うみコン2019）」会場内）

主催：横浜市

* 当日取材希望の方は、2月20日（水）午後5時までに、裏面の問合せ先にご連絡ください。

* 「横浜ブルーカーボン・カーボンオフセット制度」参加者による取組紹介は、シンポジウム後半に行います。



🚢 カーボン・オフセットとは

自らの温室効果ガス排出量を把握し、できるだけ排出量の削減努力を行ったうえで、どうしても削減できない量の全部又は一部を他の場所での排出削減・吸収量（クレジット）で相殺（オフセット）することです。



「横浜ブルーカーボン・オフセット制度」では、横浜市域のブルーカーボンまたはブルーリソースによる温室効果ガスの吸収量の増大及び排出量の削減を取引可能なクレジットとして認証しオフセットを促進するとともに、その販売代金の活用によって海の環境活動の更なる推進を目指しています。

ブルーカーボン・クレジット創出事業（平成 30 年度活用分）

わかめの地産地消による CO₂ 削減事業

- **NPO 法人海辺つくり研究会** **1.0t-CO₂**
- **横浜市漁業協同組合** **20.5t-CO₂**
- **株式会社横浜八景島** **0.7t-CO₂**

認証対象：わかめを市外から搬入せずに市内産を生産・消費することにより CO₂ 削減に貢献する量

海水ヒートポンプの更新による CO₂ 削減事業

- **株式会社横浜八景島** **0.8t-CO₂**
- 認証対象：年間を通じて温度が安定している海水のエネルギーを活用した先進的なヒートポンプの導入によって得られる省エネ効果による CO₂ 削減に貢献する量

LNG 燃料タグボートへの代替による CO₂ 削減事業

- **株式会社ウィングマリタイムサービス** **55.4t-CO₂**
- 認証対象：重油よりも燃焼時の CO₂ 排出量が少ない LNG（液化天然ガス）を燃料とするタグボートを導入することで CO₂ 削減に貢献する量

<新規>

ハイブリッドタグボートへの代替による CO₂ 削減事業

- **株式会社ウィングマリタイムサービス** **86.0t-CO₂**
- 認証対象：重油を燃料とするタグボートにおいて、効率の悪い低出力域を電動モーターでアシストすることにより、ディーゼル主機関の重油使用量を減少させることで、CO₂ 削減に貢献する量

ブルーカーボン・オフセット実施イベント・企業（平成 30 年度活用分）

● 第 9 回横浜シーサイドトライアスロン大会

5.5t-CO₂

算定対象：大会出場者の会場までの往復移動、運営関係者の会場までの往復移動、大会会場におけるエネルギー使用

● 2018 世界トライアスロンシリーズ横浜大会

33.8t-CO₂

算定対象：大会出場者の会場までの往復移動、運営関係者の会場までの往復移動、大会会場におけるエネルギー使用

● 石井造園株式会社

10.0t-CO₂

算定対象：石井造園株式会社の事業（平成 30 年 1 月 1 日～12 月 31 日）に伴う水道、ガソリン・軽油、電気の使用

● 株式会社大川印刷

1.0 t-CO₂

算定対象：平成 30 年度の印刷事業全体に係る CO₂ 排出量の一部

● 株式会社丸井グループ

1.0t-CO₂

算定対象：プライベートブランド商品 54 種の対象期間内での売上点数分の原材料の調達、生産、輸送、販売、リサイクル等に係る CO₂ 排出量の一部

● 株式会社横浜フリエスポーツクラブ（横浜 FC）

3.6t-CO₂

算定対象：平成 30 年 9 月 1 日の試合来場者 1 人あたりの排出量を 1kg-CO₂ としたときの排出量

<新規>

● 竹中・西松建設共同企業体

86.0t-CO₂

算定対象：横浜市市庁舎移転新築工事において発生する産業廃棄物（汚泥）の運搬に係る CO₂ 排出量

● 株式会社ダイイチ

18.2t-CO₂

算定対象：

- ・横浜 FC のエスコートキッズが着用する T シャツ 350 枚の製造工程と、清掃用ベスト 100 枚における縫製時の電力・輸送に係る CO₂ 排出量 **(2.2t-CO₂)**
- ・公益財団法人横浜市体育協会が運営管理する 16 スポーツセンターに販売するカーボンオフセット・ネックストラップの製造に係る CO₂ 排出量 **(16.0t-CO₂)**

● 横浜消火器株式会社

2.3t-CO₂

算定対象：いそごどもエコフェスタ 2018 における来場者 1 人あたりの排出量を 1kg-CO₂ としたときの排出量

● みなとみらいスマートフェスティバル

2.0t-CO₂

算定対象：みなとみらいスマートフェスティバル 2018 における発電機の燃料使用、施設の電気使用、及び廃棄物処理に伴う CO₂ 排出量

● 株式会社湘南貿易

1.0t-CO₂

算定対象：平成 30 年 12 月 2 日に開催された、第 13 回湘南国際マラソンにおけるエコ袋（荷物袋）1 枚につき、200g-CO₂ 排出権を付与

合計 **164.4t-CO₂** 分のカーボン・オフセット！

【横浜ブルーカーボン】

海洋に生息する生き物によって吸収・捕捉される炭素を「ブルーカーボン」といいます。

『横浜ブルーカーボン』では、「ブルーカーボン」に加え、海洋におけるエネルギー等の利活用を「ブルーリソース」と名付け、これらを一体として温暖化対策に取り組み、さらに、海辺環境の魅力を向上させることで「親しみやすい海づくり」を目指しています。



～クレジットの売却益は、横浜の海の環境活動推進に活用されています～

お問合せ先

温暖化対策統括本部プロジェクト推進課長 岡崎 修司

Tel 045-671-2636